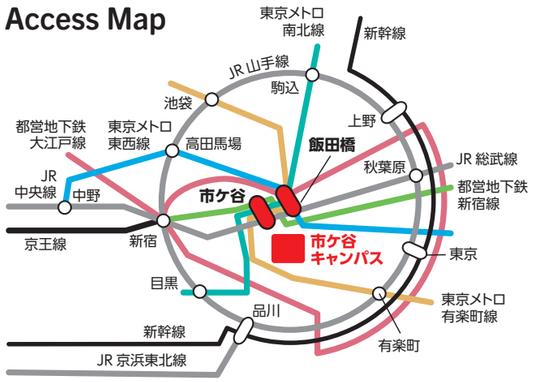
Access Map



ＪＲ 線	●総武線	市ケ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
地下鉄線	●新宿線	市ケ谷駅下車徒歩10分
	●有楽町線	市ケ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
	●東西線	飯田橋駅下車徒歩10分
	●南北線	市ケ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
	●大江戸線	飯田橋駅下車徒歩10分

自由と進歩
法政大学 人間環境学部

市ケ谷キャンパス
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL. 03-3264-9327 http://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/

法政大学 人間環境学部 検索

グリーン・ユニバーシティをめざして

法政大学では1999年３月人間環境学部の創設と同時に「環境憲章」を制定し、持続可能な社会の実現をめざす「グリーン・ユニバーシティ」宣言をしました。1999年９月に総合大学としては日本で初めてとなる“ISO14001”（環境マネジメントシステムの国際規格）の認証を取得し、大学の環境改善活動を開始し、環境教育の推進、ゴミの削減・省資源・省エネルギーを継続して実行しています。人間環境学部ではこの環境マネジメントシステムについて学ぶ講義も設けています。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013238

自由と進歩
法政大学

2015

人間環境学部

Faculty of Humanity and Environment

その先の自分を創る。

STUDY CONCEPT

サステイナブル（持続可能）な社会の構築を目指して、人間環境学部では、政治、経済、社会、自然、文化などさまざまな角度から人間と地球に関する理解を深め、学際的に環境と社会について学びます。また、社会との交流を重視して、環境問題を実体験するフィールドスタディ（現地実習）や、現場で活躍する方々を招く人間環境セミナーなどを実施しています。自分の個性・適性を考え、学ぶ方向を明確にするための道案内として、コース制が導入されています。これにより自由度の高い履修プランが可能となり、確かな自主性が育ちます。

持続可能な社会 の実現を目指して

現代の文明を問い直し、幅広い　知識と知恵で未来を拓く

CONTENTS

人間環境学部のカリキュラム …… 4
コース制の履修例 …… 6
講義紹介 …… 10
ゼミナール …… 12
フィールドスタディ …… 14
トニカン「とにかく考えてみよう！」 …… 17
学生の環境活動 …… 18
進路・就職状況・資格、OB・OGからのメッセージ …… 19

学部長あいさつ

2011年の東日本大震災とその後発生した原子力発電所事故は、災害という側面はもちろんのこと、環境問題、資源問題に対して長期的にどのように対処していくべきかという課題を否応なくわれわれに問いかけています。昨今の大陸からの越境大気汚染問題の例では経済成長と環境問題の関係を国際的にいかに解決していくのかが問われています。このような問題を考えるとき登場する概念に人間環境学部で追求すべき理念としてあげている「持続可能な社会」があります。

われわれはよく、将来の姿を考える際に現状から将来を予測する手法（フォーキャスティングという）を用います。しかし予測のめがねは不透明で、足下の条件次第で大きく変動し、将来になればなるほど大きく外れる傾向にあることをわれわれは知っています。一方、将来のあるべき姿である「持続可能な社会」から現在の社会を逆方向にみること（バックキャスティングという）によって、現状のいろいろな問題点が明らかになり、目指すべき方向やビジョンが大切であることに気づかされます。

これは一例にすぎませんが、「持続可能な社会」を考える際には、これまでの学問領域の垣根を超え、学際的な学びを行うことによってそれらを結集することが不可欠です。地球規模での環境問題に対処しこれまでのライフスタイルや文明のあり方までも根本的に検討し見直すべき時代に入っている現在、新たな社会の姿を求めてともに取り組んでいきましょう。

人間環境学部 学部長
國則 守生

人間環境学部のカリキュラム

文系から「環境」に取り組み、持続可能な社会をめざすためには、今までの学問領域の垣根をこえて、諸成果を融合した「学際」的な教養・発想が必要です。本学部は、社会科学を中心に、人文・自然科学まで、この学際的な学びが有効にできるよう、「コース制」という履修ガイドシステムを設けています。そして教室での「座学」だけでなく、現場実習など社会とつながるプログラムも充実させ、実体験に支えられた能力が身につくよう図っています。

市ケ谷基礎科目（1年次～）

- 必修外国語（2か国語選択）
- 保健体育
- 一般教養科目

など

法政大学市ヶ谷キャンパス共通の教養教育プログラムです。

1～4年次まで

学部専門科目

フレッシュマン科目（1年次）

人間環境学への招待

入学して最初（春学期）に学ぶ全員必修科目で、人間環境学とは、本学部のカリキュラムの総称です。すなわち、この授業は本学部での勉学の方向づけを目的とし、文系から環境問題に取り組むための基礎的な視点をガイドします。多様な科目をどのように選択しながら学んでいくのか、5つのコースではどのようなテーマをとりあげているのか等、各コースに関わる教員達が交代で講義してゆき、あなたを「人間環境学」へ招待します。

基礎演習

1年次の秋学期に全員が参加するプレ・ゼミナールです。大学でのアカデミックな勉強のスキルを身につけるため、文献や資料の検索法、プレゼンテーション（研究発表）の仕方やレジュメ（発表で用意する要約プリント）の作成、論文の書き方などを実習します。少人数クラスの利点を生かして、学生・教員相互、学生同士のコミュニケーションを図り、刺激し合って、議論などの成果を「共有」する習慣を身につけ、2年次以降の学習への橋渡しをします。

スキルアップ科目（1年次～）

- アクティブ英語
- テーマ別英語
- 情報処理（情報処理基礎・ネットワークとマルチメディア・統計とデータ分析）

展開科目（1・2年次～）

科目群	基幹科目		政策科目	
法律・政治関連	憲法の基礎 行政法の基礎 刑法の基礎 アメリカ法の基礎 民事法ⅠⅡ	国際法ⅠⅡ 行政学 市民社会と政治 地方自治論 国際関係論	環境法Ⅰ～Ⅳ 日本公害史と法 国際環境法 比較環境法 労働環境法	アメリカ環境法 自治体環境政策論ⅠⅡ 地球環境政治論 地域協力・統合 エネルギー政策論
経済・経営関連	ミクロ経済学ⅠⅡ マクロ経済学ⅠⅡ 簿記入門ⅠⅡ 公共経済学 経営学入門	環境経営と会計 現代企業論 ビジネスヒストリー	環境経済論ⅠⅡ 環境経営論ⅠⅡ 環境経営実践論ⅠⅡ CSR論ⅠⅡ 環境評価論ⅠⅡ	環境ビジネス論 国際環境政策ⅠⅡ 途上国経済論ⅠⅡ 国際経済協力論ⅠⅡ
社会・地域関連	現代社会論Ⅰ～Ⅲ 社会統計論 NPO・ボランティア論 フィールド調査論 ファシリテーション論 グローカル・コミュニケーション		地域形成論 地域経済論 地域福祉論 地域コモンズ論 都市環境論ⅠⅡ 都市デザイン論 環境社会論Ⅰ～Ⅲ NGO活動論	労働環境論Ⅰ～Ⅲ 実践キャリア論 災害政策論 科学技術社会論 地域環境ケーススタディⅠⅡ 社会開発論 グローバルコミュニティ開発教育
人文科学関連	環境倫理学 生命の現在と倫理 西欧近代批判の思想 仏教思想 日本美術史論	西洋美術史論 日本詩歌の伝統 伝統芸能論ⅠⅡ 比較演劇論ⅠⅡ	環境哲学基礎論 日本環境史論ⅠⅡ ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ 環境表象論ⅠⅡ 環境人類学Ⅰ～Ⅲ	
自然科学関連	自然環境科学の基礎（物理学・化学・生物学・生態学） 自然環境論Ⅰ～Ⅲ 自然災害論 地球科学史ⅠⅡ	気候変動論ⅠⅡ 環境モデル論ⅠⅡ エネルギー論Ⅰ 環境健康論ⅠⅡ	環境科学Ⅰ～Ⅲ 自然環境論Ⅳ 自然環境政策論ⅠⅡ エネルギー論Ⅱ 大気と社会ⅠⅡ	衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲ
環境総合	食と農の環境学Ⅰ～Ⅲ 公害防止管理論ⅠⅡ		廃棄物・リサイクル論 環境教育論 キャリア入門	実践キャリア論 グローバル人材論 スポーツビジネス論ⅠⅡ

ゼミナール（研究会 2年次～）

- フィールドスタディ
- 人間環境セミナー
- 人間環境特論
- インターンシップ

研究会修了論文（4年次）

社会とつながる「体験型」プログラム

フィールドスタディ

「現場」に出かけて体験・実習するプログラムで、本学部の教育のセールスポイントとなっています。国内・海外に多彩なコースが設けられ、夏休みまたは春休みに実施されます。14～16ページをご覧ください。

人間環境セミナー

セメスター（1年の半期）ごとに設けたテーマをめぐって、企業、政府・自治体、NGO・NPO、研究機関など、「現場」の第一線で活躍する方々を講師に招く講座です。豊富な経験と最新の情報にもとづく話を聴くことができます。現場のリアリティーに新鮮な刺激を受け、積極的な質問等を通じて、講師の方が所属する組織や活動団体と以後交流できるチャンスも得られるこのセミナーは、「社会との交流」のよき窓口となり得るでしょう。

最近のテーマ例

- 離島―その自然・経済・社会・文化
- アフリカの環境保全と開発
- 環境経営の最前線
- 環境と国際関係・国際協力
- 科学技術と社会
- 地域づくりにおけるNPOとキーパーソン

コース制 自ら創れる、学際的な履修プラン

「展開科目」の表に「○○関連」と、幅広い科目群が設けられていますが、自分の学習の軸をさだめるとともに、一つの科目群に偏らずに、垣根をこえて学際的な履修計画が立てられる道案内のしくみがコース制です。以下の5コースそれぞれに、人数制限や履修のしばりはありません。

みなさんは2年次の初めに5コースのどれかを選択します。多くがそのコースに関連するゼミナール（➡12・13ページ）に参加して勉学の中心とするとともに、コースごとの推奨科目やゼミ教員の助言を参考に、オーダーメイドで履修プランをつくることができます。そしてその学習成果を卒業後の進路選択につなげてゆきます。6～9ページに紹介する学生サンプルによって、コース制の履修のイメージをつかんで下さい。

地域環境共生コース

自然保護、廃棄物、都市や農山村の地域づくり、環境教育、文化と歴史、ローカルに取り組む地球環境問題など、多様な地域環境政策を学びます。人間と環境との共生、人々の共生が実現した持続可能な地域社会を、自治体・市民・NPO・企業が協力してつくる可能性について考えます。

国際環境協力コース

幅広い教養を備えグローバルな視点から地球環境問題を考えることができる国際人の育成をめざします。法、政治、経済や科学の知識を基礎に、温暖化や砂漠化など、国境を越えた地球規模の問題への理解を深め、国際的な環境政策の動向、開発途上国への経済・環境協力などを学びます。

エコ経済経営コース

経済活動が自然の循環と両立し、企業が社会的責任を果たしていくためにはどのような経営が求められているかを、先進的な企業の環境経営を通して学びます。また、持続可能な社会の構築に向けて求められる経済政策などの学習を通して、望ましい経済活動のあり方を考えます。

環境文化創造コース

「持続可能性」の観点から、人間が築いてきた文化とその将来を見つめ直し、「環境市民」とし未来を展望するにふさわしい知見と鋭敏な感覚・感性を養います。思想・哲学・歴史・文学・アート・伝統文化・ライフスタイルなどの分野に関わる、多様なテーマ設定が可能です。

環境サイエンスコース

人間と科学のよりよい関係、科学技術のあり方を模索する、文系でも選択できるコースです。環境科学の基礎知識を身につけながら、科学技術と現代の文明社会・環境問題との関わりを、経済・公共政策・社会的受容などの面から多角的に考察します。東日本大震災を経験した今こそ、重要性が高まっている課題にも対応します。

コース制の履修例

コース制（4・5ページ）のメニューとなる「展開科目」（4・5ページ表）は、一つの科目が複数のコースに深く関連する場合も珍しくありません。このため、科目群を5つのコースに沿って整然と区分けできないのが、「学際」をめざすカリキュラムの特質です。

このコース制の具体的イメージを持っていただくために、5つのコースから、サンプルとして一人ずつ4年生を紹介しましょう。皆、ゼミナール（研究会）での個人研究を核に、「展開科目」の一つの科目群に偏らずに、領域をこえて学際的に履修しているさまがわかると思います。「○○関連科目群から△単位以上」といった履修のしばりは無く、以下の履修例は、コースごとの推奨科目やゼミ教員の助言などを参考に、学生がめいめい自主的に立てたプランです。（資料は2013年度です）

地域環境共生コース

小島研究会A 4年生　石井 理絵さん

●研究テーマ

- 地域文化の記憶継承による持続可能な地域づくり（長野県飯山市における「まちの文化祭」の企画運営など、高齢者の多い住民との交流活動を通じて）

●履修した展開科目

法律・政治関連	民事法Ⅰ　市民社会と政治　環境法Ⅱ　地方自治論ⅠⅡ　自治体環境政策論Ⅱ 地球環境政治論　地域協力・統合　製造物責任法
経済・経営関連	国際経済協力論Ⅰ
社会・地域関連	地域形成論 地域経済論 地域コモンズ論　地域福祉論　NPO・ボランティア論 都市環境論ⅠⅡ　労働環境論Ⅲ　社会開発論
人文科学関連	生命の現在と倫理　日本美術史論　環境人類学ⅠⅡⅢ
自然科学関連	自然環境科学の基礎（生物学）環境科学Ⅱ　気候変動論Ⅰ 環境健康論ⅠⅡ　衛生・公衆衛生学Ⅰ
環境総合	環境教育論　スポーツビジネス論Ⅰ
人間環境特論	「観光と地域振興」「エコツーリズムの可能性」「交通モビリティと持続可能性」
フィールドスタディ	北九州市「環境修学旅行」

私は高校3年生の時に環境問題に興味を持ち、大学で学んでいきたいと思ったため、人間環境学部を志望しました。入学当時は環境問題について抽象的にしか捉えていませんでしたが、講義やゼミを通して、様々なことを学びました。

この学部の魅力は一つの分野に限らず、幅広い分野について学べることです。私は地域環境共生コースを登録し、ゼミではまちづくり、まちおこしについて勉強をしています。そして講義では地域について学ぶだけではなく、国際関係や法学、科学などの講義も履修しました。それが広い視点から環境問題を理解するきっかけになり、充実した４年間を過ごせています。大学４年間はとても濃い時間になるため、やりたいことや興味あることをぜひ全力でチャレンジしてほしいです！

国際環境協力コース

武貞研究会A+関口研究会B 4年生　碇谷 知里さん

●研究テーマ

- 持続可能な国際社会を求めて ―途上国の人々と先進国の私たち―（武貞ゼミ）
- ブッダの言葉（スッパニーダ）について（関口ゼミ）

●履修した展開科目

法律・政治関連	民事法Ⅰ・Ⅱ　エネルギー政策論
経済・経営関連	マクロ経済学Ⅰ　国際経済協力論ⅠⅡ　途上国経済論Ⅰ　国際環境政策Ⅰ　環境経済論ⅠⅡ
社会・地域関連	地域形成論　地域経済論　地域コモンズ論　環境社会論ⅠⅡ　NPO・ボランティア論 NGO活動論　ファシリテーション論　社会開発論
人文科学関連	環境哲学基礎論　仏教思想　日本環境史論ⅠⅡ ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ　環境表象論Ⅰ　テクストと人間像
自然科学関連	衛生・公衆衛生学Ⅰ
環境総合	食と農の環境学ⅠⅡ
人間環境セミナー	「国際舞台で活躍する人々」
フィールドスタディ	●中国黄河流域の砂漠で地球環境問題を学ぶ ●ドイツにおけるまちづくりと環境 ―住民参加、エネルギー、医療― ●スリランカ　開発途上国の人々の暮らしと国際協力の現場を知る

中学生の頃から漠然と環境問題に興味を持っていた私は高校１年生の時にこの学部を知り、幅広く学べることに魅力を感じて、志望しました。そして、入って良かったと心から思っています。

私は途上国の貧困問題に興味を持ち、フィールドスタディでスリランカを訪ねました。現地の景色やにおい、食べ物、文化、人柄など本を読んだだけではわからないその国独自の特徴や魅力をたくさん知ることができ、今まで持っていた途上国のイメージが大きく変わりました。「支援とはなにか」「本当の幸せとはなにか」について改めて考えるようになり、3年生の時、東南アジアの人材育成・農村開発活動に携わる国際NGOでの長期インターンシップも経験しました。将来は途上国支援を行っているNGOで働く夢を持っています。人環の学生は、それぞれが違った視点から環境問題を学んでいて、友達と話しているだけでも毎日が新しい発見にあふれています。ぜひ皆さんも人環でアツイ大学生活を過ごしませんか？　お待ちしています！

エコ経済経営コース

長谷川研究会A 4年生　渡部 愛子さん

●研究テーマ

高齢者の身体的健康に寄与する企業、農業の生産性と効率性に関わる企業

●履修した展開科目

法律･政治関連	行政法の基礎　環境法Ⅰ
経済･経営関連	CSR論ⅠⅡ　EMS論　現代企業論、　国際経済協力論ⅠⅡ　途上国経済論ⅠⅡ
社会･地域関連	ファシリテーション論　グローカル･コミュニケーション　NPO･ボランティア論 NGO活動論　地域経済論　地域福祉論　地域協力･統合　都市環境論ⅠⅡ
人文科学関連	日本詩歌の伝統　環境表彰論ⅠⅡ　ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ
自然科学関連	自然環境科学の基礎（生物学）　自然環境論Ⅰ　衛生･公衆衛生学ⅠⅡⅢ 自然環境政策論ⅠⅡ
環境総合	キャリア入門　スポーツビジネス論ⅠⅡ
人間環境持論	「観光と地域振興」「商社活動とCSR」 「交通モビリティと持続可能性」「自然環境災害と貿易」

将来は国際的に社会貢献し、活躍したい！　そんな思いから、様々な角度から幅広く学ぶ事の出来るこの学部を志望しました。ゼミでは、生態系サービスによってもたらされる恩恵を前提として、人間と人間が作る社会について考えています。その活動の一環として、STOCKリーグという自主テーマによるポートフォリオ学習コンテストに出場しました。各自の問題意識からテーマにあったポートフォリオを構築した結果、2年連続での入賞を果たしました（写真、右から二人目が私です）。就職活動ではゼミでの活動が活き、卒業後は夢であったJALの地上職として羽田空港の国際線で働きます。受験生の皆さん応援しています！　人環の素敵な仲間と教授と共に人生を更に最高にして下さい！

環境文化創造コース

梶研究会A 4年生　佐藤 宏樹さん

●研究テーマ

沖縄の小離島における「文化的景観」とエコツーリズム

●履修した展開科目

法律･政治関連	行政法の基礎　環境法Ⅰ
経済･経営関連	CSR論ⅠⅡ　EMS論　現代企業論　国際経済協力論ⅠⅡ　途上国経済論ⅠⅡ
社会･地域関連	ファシリテーション論　グローカル･コミュニケーション　NPO･ボランティア論 NGO活動論　地域経済論　地域福祉論　地域協力･統合　都市環境論ⅠⅡ
人文科学関連	日本詩歌の伝統　環境表象論ⅠⅡ　ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ
自然科学関連	自然環境科学の基礎（生物学）　自然環境論Ⅰ　衛生･公衆衛生学ⅠⅡⅢ 自然環境政策論ⅠⅡ
環境総合	キャリア入門　スポーツビジネス論ⅠⅡ
人間環境持論	「観光と地域振興」「商社活動とCSR」「交通モビリティと持続可能性」 「自然環境災害と貿易」

私は高校生の時、大学では観光と環境について学びたいと思い、その両方を学ぶことができるこの学部に興味を持ち、入学しました。

ゼミでは「離島」をフィールドに研究をしました。綺麗な海、のんびりした雰囲気―それだけではない島の魅力とは何か。伝統文化を生かし、島に誇りを持って生きることが、どのようにして「エコ」に繋がるのか。このような実地調査をしながら、一見環境と関係が薄そうな事柄でも大いにエコと繋がりがある、そんな柔軟な視野を養うことができました。人間環境学部は様々な一生の「出会い」のチャンスにあふれています。学び、友人、教授etc。そんな素敵な出会いがきっと皆さんにも待っているでしょう。「人環」で一生忘れられない最高の大学生活を送ってみませんか?

環境サイエンスコース

朝比奈研究会A 4年生　堀内 祐吾さん

●研究テーマ

犬の行動、心理からみたアニマルセラピー

●履修した展開科目

法律･政治関連	地域協力･統合
経済･経営関連	CSR論ⅠⅡ　国際経済協力論ⅠⅡ
社会･地域関連	NPO･ボランティア論　NGO活動論　地域形成論　地域経済論 地域福祉論　都市環境論ⅠⅡ　災害政策論
人文科学関連	環境倫理学　西洋美術史論　日本環境史論Ⅰ ヨーロッパ環境史論ⅠⅡ　環境人類学Ⅰ
自然科学関連	自然環境科学の基礎（生物学）　自然環境論ⅠⅡⅢⅣ　自然環境政策論ⅠⅡ 気候変動論ⅠⅡ　エネルギー論Ⅰ　衛生･公衆衛生学ⅠⅡⅢ　環境健康論ⅠⅡ
環境総合	食と農の環境学Ⅱ　環境教育論　スポーツビジネス論Ⅰ
人間環境特論	「観光と地域振興」「エコツーリズムの可能性」

私がこの学部を志望したきっかけは、純粋に動物が好きであり、温暖化による動物の絶滅のメカニズム、広くみると自然への影響を学びたいと思ったからです。ですが、その気持ちだけでは将来の不安は拭えません。学び得た知識を社会で活かせるのか不安でした。しかし、人間環境学部で学んでいくうちに、様々な可能性があることに気づきました。21世紀は環境の世紀と呼ばれ、多くの企業が環境問題に力を注いでいます。この学部で学んだことは、それらの全ての企業で生かすことができるのです。受験生の方の中にも将来の展望について不安を抱いている方もいるかと思いますが、入学後視野は狭まるどころか広がり、未来の確かな感触に変わっていくと思います。

講義紹介

私たちの学部が設けている、社会科学・人文科学・自然科学にわたる多様な科目の広がりは、他学部にはない特色です。4・5ページに示した授業科目の中から、いくつかの講義について担当教員が紹介します。

環境健康論Ⅰ・Ⅱ

朝比奈 茂 Shigeru Asahina

近代医学は、人類の健康に多くの恩恵をもたらした一方で、からだ全体を統一的に観ることが失われていることも否めません。本講義では、環境と健康の関係を理解するために、自然と調和した健康観にもとづいた補完代替医療をとりあげ、生命の特徴である多様性、個別性を意識しつつ様々な角度から健康について学びます。

環境経営論Ⅰ・Ⅱ

金藤 正直 Masanao Kanetoh

現在、企業が地域に根ざした「事業（ビジネス）」を継続的に行っていくためには、環境に配慮した経営（環境配慮経営）が必要不可欠です。本講義では、企業による環境配慮経営の取り組みを、経営学および会計学の両視点から学習していきますので、各企業が環境に配慮しながら持続的に成長していくための経営手法の基礎的知識を身につけることができます。

環境法Ⅰ・Ⅲ

後藤 彌彦 Yahiko Goto

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積しています。「環境法Ⅰ」は、歴史的視点から公害環境法の生成と展開を俯瞰し、現在の環境法の体系・特色などを学ぶ環境法の総論です。「環境法Ⅲ」は、個別の公害法、廃棄物リサイクル法の仕組みを習得する環境法の各論です。

環境哲学基礎論

関口 和男 Kazuo Sekiguchi

環境の分野では、さまざまな問題が噴出し、人々の新たな対立の原因となる場合があります。それは、相手も自分と同じ類の人間だという楽観主義的な姿勢が大前提とされているからです。この壁を乗り越えていくには、環境に関する基本的な諸概念を根本から考えていく必要があります。これが、環境哲学基礎論の課題です。

西洋美術史論

板橋 美也 Miya Itabashi

19世紀半ば以降、ヨーロッパやアメリカの芸術家たちは、日本の美術工芸からインスピレーションを得ながら、さまざまな新しい美術やデザインの潮流を巻き起こしました。本講義では、特にイギリスで、美術やデザインを通して日本がどのように眺められてきたのかを追っていくことで、異文化間交流のあり方について考えます。

環境経済論Ⅰ・Ⅱ

國則 守生 Morio Kuninori

どうして環境問題の軽減・解決には多くの時間を要してきたのでしょうか。さまざまな要因とともに、まず気付くのは、環境問題はさまざまな経済活動とともに発生してきたということです。そして環境を良くするには経済活動を上手にマネージする必要があります。どのような方策があるのか、一緒に考えていきましょう。

グローカル・コミュニケーション

エスター・ストックウェル Esther Stockwell

世界の各地域において、歴史や民族性によって蓄積された多様な文化が深く関わっています。本講義は、この多様性に日本のローカル面と国際のグローバル面、２つの観点から目を向け、世界各国の急速なグローバル化に伴い、異なる文化、民族、国家間の相互理解を深め、円滑なコミュニケーションを促進するための科目です。

自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ

高田 雅之 Masayuki Takada

自然環境を保全し未来に引き継いでいくには、自然の仕組みや生き物のことを知り、人間活動が引き起こす問題を理解した上で、どのような考え方が必要か、また社会的・科学的な取り組みが有効かを考えなければなりません。本講義では、人と自然との調和のあり方を問題意識に持ち、国内と国際の両方の視点から、様々な保全の可能性を学習し探求します。

気候変動論Ⅰ・Ⅱ

松本 倫明 Tomoaki Matsumoto

地球温暖化に代表されるように、気候変動は環境問題を考える上で基本的で重要な現象です。しかし、気候変動のメカニズムは複雑で、間違った理解をしている人も少なくありません。この講義では気候変動の自然科学的な側面をわかりやすく解説します。この講義で学んだ事柄は地球温暖化の緩和政策を考える上でも役立つでしょう。

実践キャリア論

長峰 登記夫 Tokio Nagamine

キャリアを仕事に限定して考えても、就職から定年にいたるまでの道のりは長いです。私たちは大学を卒業して就職し、様々な仕事経験を積んで、やがて退職していきます。他方、仕事をするなかで様々な問題に直面することも多いです。本講義では、就職から退職にいたる過程で直面する様々な問題を取り上げながら、解決策を考えるとともに、職業キャリアについて総合的に学びます。

地球科学史Ⅰ・Ⅱ

谷本 勉 Tsutomu Tanimoto

動かざること山のごとし、というのは地球科学的には間違いです。でもこの間違いに気づくのには、長い長い時間がかかりました。天文学的に地球が動いていることが明らかになった後、さらに三百年以上かかりました。人間がその時々でどんな地球観を作り上げてきたか、そのドラマをこの講義では克明に追いかけていきます。

環境科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

藤倉 良 Ryo Fujikura

環境問題は人間社会と自然環境との相互作用です。問題がなぜ生じて、解決するにはどうすれば良いかを正しく理解するためには自然科学や工学の基礎知識が欠かせません。公害や廃棄物など地域の問題をⅠで、温暖化や酸性雨など地球規模や越境する問題をⅡで、淡水や化石燃料、遺伝資源、金属など資源の問題をⅢで解説します。

衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

宮川 路子 Michiko Miyakawa

衛生・公衆衛生学は疾病の予防、健康の保持増進を図る科学技術です。医学の分野に留まらず、環境問題をはじめ、健康に関わる幅広いテーマを取り扱い、国民の健康寿命の延長を目指しています。講義では学生の皆さんの健康意識を高め、健康管理を行っていくために必要な知識の習得を目的としています。

自然災害論

杉戸 信彦 Nobuhiko Sugito

自然災害を決定づける要因は「自然界がもたらすハザード」と「人間社会の脆弱性」です。その地で「いつ」「何が」起こり得るのでしょうか。人間社会は「その時」にどう備えるべきでしょうか。本講義では自然環境に内在するハザードの実態やまちづくりのハード面に関わる現状を、災害調査現地データもまじえて解説します。防災力の高い地域社会を構築するベースとなります。

フィールド調査論

西城戸 誠 Makoto Nishikido

この講義では、アンケート調査や聞き取り調査などの社会調査に関する基本的な知識、技術を学びます。実は「調べる」という営みは、専門家が行うものだけではなく身近なものです。日々の生活の中で必要な情報を「自分で調べる」技術と、さまざまな分析結果を理解するためのリサーチリテラシーを習得することが目的です。

日本詩歌の伝統

日原 傳 Tsutae Hihara

定型詩の実作を指導する授業です。先人の作品を紹介し、定型詩のきまりを解説した上で、実作に挑戦してもらいます。半年の授業で、俳句三十句、短歌六首、漢詩（七言絶句）一首ほどを創作することになります。定型詩の鑑賞と実作とを通して、身辺の四季の変化を感じとる心を養い、言葉に関する感覚を磨く手伝いが出来ればと思っています。

ゼミナール

2年生から履修できるゼミ（研究会）は、コース制の学びの中心となる居場所です。各教員の専門分野に応じて、多彩なテーマのゼミが少人数制で開かれます。学生は各自の興味関心にあったゼミを選び、自分の学びの軸を定めて研究し、卒業後の進路選択につなげます。ゼミには、3年間継続して、卒業論文にあたる「研究会修了論文」を書けるAゼミと、1年間単位でも参加できるBゼミとがあります。意欲があればAゼミ＋Bゼミと、複数のゼミに参加できることも特色です。

国際法の研究を通して国際平和の追求について考える

岡松 暁子 Akiko Okamatsu

岡松ゼミでは、模擬裁判やディベート等を行い、国際社会で起こっている武力紛争、人権侵害、環境破壊などの国際問題の解決について考えます。また、政府機関をはじめとした様々な施設を訪問し、国際法が実際に使われている現場で見識を深めています。

持続可能な地域社会の創造と公共政策

小島 聡 Satoshi Kojima

私のゼミでは、「持続可能な地域社会の創造」をテーマとして、地域環境をはじめとする多様な政策問題の解決方法について学んでいます。また「グローバルに考え、ローカルに行動する」を合言葉として、まちづくりの実践活動の企画運営と調査研究を往復しながら、地域との交流を深め、成果を社会に還元しています。「書をもってまちに出る」チャレンジに参加してみませんか。

持続可能な国際社会を求めて：途上国の人々と先進国の私たち

武貞 稔彦 Naruhiko Takesada

途上国の貧困問題解決と環境保全はどのような関係にあるのか、を課題に、環境と開発のバランス、持続可能な社会の姿について学び考える研究会です。日本社会とのつながりを視野に入れたグループディスカッションを多く行います。新しい社会をつくりあげるため、知力、想像力、心の体力、自らの思いを届ける力、そして人の声を聴く力を養うことを目指します。

環境監査法務の基本

永野 秀雄 Hideo Nagano

永野ゼミでは、環境監査法務の基本を学んでいます。隔年で欧米のCSR研究と、環境法・英文契約を学習します。また、水質関係第1種公害防止管理者、および、英検準1級以上の取得を目標としています。ゼミでは、学生が班を編成して発表をしています。また、学生を国際的なプロジェクトに多く送り出しています。

「文化的景観」とエコツーリズム

梶 裕史 Hiroshi Kaji

人は、見た目より中身が大切ですよね？それと似て、ある地域の個性・魅力を、目に見える姿だけでなく見えないものまで含めて評価し、環境共生型の地域づくりや人づくりに役立てる考え方が「文化的景観」「エコツーリズム」です。ゼミ生は各自で関心をもつフィールドを実地調査し、その成果を発表して共有し合います。Aゼミでは沖縄離島ゼミ合宿も行っています。

社会環境とエネルギー

北川 徹哉 Tetsuya Kitagawa

エネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわりを勉強しつつ、社会の未来を考えます。最近ですと、スマートグリッドに関連する文献や資料をメンバーで分担して読み込みました。担当者が自分のパートをプレゼンし、皆でディスカッションしてゆきます。ワイワイ言い合うことの大切さを知りましょう。

人と環境の関係史を考える

根崎 光男 Mitsuo Nesaki

本ゼミでは、毎年、自然保護・動物保護・都市環境・農村環境・公害などのテーマを決めて、人と環境とのかかわりの歴史を考えています。いつの時代でも、先人は環境問題に直面し、その都度、問題解決に尽力してきました。各時代の社会的背景を視野に入れながら、環境問題のありようと、先人の取り組みや知恵を学んでいきます。

地域の文化を考える

平野井 ちえ子 Chieko Hiranoi

芸能を軸として、伝統継承（民族芸能）や国際交流（演劇祭）などに見られる、地域の個性を考えてみませんか？文化の「場」に足を運び演者の生の身体エネルギーに触れる経験には、文献やインターネットでは得られない感動や達成感があります。演劇とは何か？文化とは何か？このゼミで共に語り合いましょう。

科学技術政策へ向けて多角的に考える

渡邊 誠 Makoto Watanabe

今日の我々が抱えている環境問題は、人間が生み出し利用してきた科学技術の進歩の結果であるとも言えます。それ故環境問題を研究するためには、科学技術の歴史を学び、その役割を考え、そしてその将来像を考察することが重要です。このゼミナールでは、科学技術の具体例を調査することを通してその在り方を模索しています。

伊豆諸島の地域研究―自然・文化・生業から離島の地域社会を考える

安岡 宏和 Hirokazu Yasuoka

このゼミでは、伊豆諸島をフィールドとして離島の自然と文化について学び、それを活かした産業のあり方や、地域社会の今後について考えます。伊豆諸島は東京にもっとも近い離島でありながら、あるいはそうであるがゆえに、東京で暮らす人々にとって「遠い場所」です。そのような近くて遠い場所で、東京の日常とすこしだけ異なる世界に触れてみましょう。

ゼミナールテーマの例（2013年度は53クラスを開講しました。以下はその一部です）

- ホリスティックな健康観を身につける
- 江戸庶民の娯楽－遊びの精神を探る－
- Mass Media Research
- 「市民社会」を生きる－歴史・環境・文化
- 深く考え、知る喜びを味わう
- 「文化的景観」とエコツーリズム
- 現代社会を健康に生きていくために
- サスティナブルなまちづくり
- 千代田区における地域環境政策
- 自治体で働くということ
- 持続可能な国際社会を求めて：途上国の人々と先進国の私たち
- 途上国と私たちの暮らしのつながりを考える
- ローカルな環境問題への社会学的アプローチ
- 〈人〉と〈環境〉のかかわりの再編と市民活動・NPO・ボランティア
- 伊豆諸島の自然・文化・観光
- 職業生活をとおして労働環境を考える
- 地球環境問題：環境経済学からのアプローチ
- 環境経済学への道：その基礎と発展を求めて
- 環境法政策に関する研究
- 国際社会を英語で読む
- 行政・国会の仕組み
- 英文契約書の読み方
- 地球温暖化とその周辺
- 気象を基礎から学ぶ

フィールドスタディ
五感で感じる学び

フィールドスタディ（現地学習）は、キャンパスを出て現地に身を置き、私たちが置かれている社会環境や自然環境を肌で感じ、さまざまな体験を通して自らの問題意識を高めようという目的で設けられている科目です。まちづくり、農業、地域福祉、環境経営、文化、自然保護、国際協力、エネルギーなど多様なコースを実施しています。環境問題を学問的に深く追求することに加え、五感を駆使して学ぶ経験は、将来にわたり皆さんにとって有意義なものとなるでしょう。

陸・海・空の交通運輸を支える

北川 徹哉

人の生活と命、社会、経済の基盤であり、高度に発達した陸・海・空の交通運輸は常に正常で安全に運行することを強いられています。さらに、近年は環境問題への対応も求められるようになりました。これらの交通運輸システムを支えるため、製造、維持管理、施設保守の役割は極めて重要です。現場を訪れ、業務の重責を肌で感じましょう。

ブナの森から農業と農村を考える

田中 勉

新潟県上越市吉川区を訪ね、農業と農村に関するさまざまな問題を考えます。ブナの森から流れ出る水が田んぼを潤す吉川区は、過疎化と高齢化の中で米づくりに熱い思いを持った人々が暮らす美しい農村風景が残る農業地域です。自然を利用する農の営みとそこに作られるコミュニティとしての農村について、農家の方など多くの人と出会い直接話をうかがうことで多くのことが学べます。あなたの視野が大きく広がる体験をしてみませんか？

環境と文化の都市・飯田のまちづくり、地域の伝統芸能と社会

安藤 俊次 / 石神 隆

旧城下町である飯田市は、人形劇とリンゴ並木を愛し、エコツーリズムを推進する環境文化都市として有名です。人形劇フェスティバルへの参加を通し、また環境重視のまちづくりをめざす市の政策や活動を多方面から学び、新しい地域のあり方を考えます。さらに伝統芸能を鑑賞、妻籠・馬篭地域の伝統的町並みを視察し、文化の伝承と地域づくりを学習していきます。

津軽鉄道が結ぶまちづくり（青森県五所川原市、中泊町、つがる市）

西城戸 誠

赤字が続くローカル路線の中でもファンが多いとされる津軽鉄道とその沿線におけるさまざまな地域活動を見学、体験しながら、奥津軽地方の「着地型観光」について考えていきます。着地型観光とは、着地側が受け入れやすい観光を通じて観光地の人々と観光客の間によいコミュニケーションが生まれるような地域密着の観光のことを指します。コミュニティカフェを経営する、でる・そーれの皆さんと一緒に、現実を見据えながら、奥津軽の「着地型観光」のモデルの一つを作り上げていきます。「**机の上だけじゃ学ぶことのできない　ここでなければ巡りあうことができない　そんな時間と出会いが“ここには”ある**」という津軽の皆さんのメッセージの意味を考えていきましょう。

演劇ワークショップ「インプロビゼイションを学ぶ」

平野井 ちえ子

FS演劇ワークショップの第1弾は、「インプロビゼイションを学ぶ」と題し、プロの俳優さんを講師に招いて、身近な日常的コミュニケーションに生かせる演劇メソッドを体験しました。「インプロ」とは、シアターゲームまたはシアタースポーツとも呼ばれるメソッドです。場所は、プロの公演にも使われる素敵なアトリエで、舞台照明、音響設備、壁面ミラーなどを完備した、ちょっとワクワクする空間でした。都内で通いのFSでしたが、みんなあっという間に仲良くなれ、楽しく学べた４日間でした。

浜松企業のDNAから企業経営の持続可能性とCSRを探る

長谷川 直哉

日本経済の発展に貢献したトヨタ、ホンダ、スズキなど多くの企業の発祥地である浜松市。今も多くの企業が本社や拠点を置いています。浜松市に本社・拠点がある企業を訪問・見学し、この地に根付く企業の持続可能性に関する秘訣を探り、地方に拠点を置く企業の経営実態を知ることを目指します。事前に企業のCSR報告書を読みCSRに対する理解も深めます。

2013年度　人間環境学部　フィールドスタディ実施一覧

テーマ	実施場所
障害者福祉の体験	群馬県安中市 ゆきわりそうの山荘
環境と文化の都市・飯田のまちづくり、地域の伝統芸能と社会	長野県飯田市(市街地と山間部)及び妻籠(長野県)・馬篭(岐阜県)
陸・海・空の交通運輸を支える	東京都、神奈川県
地域において障害者とともに過ごす ―就労継続支援・生活介護活動への参加―	埼玉県三郷市 『みどりの風』:就労支援および生活介護 『工房・風のうた』生活介護ほか
持続可能な地域社会の多様性 ～観光リゾート、山村、大都市の地域間比較～	山梨県富士河口湖町、山梨県小菅村、神奈川県横浜市
東京い一散歩 ―東京の都市環境を考える	東京23区内
国立公園の魅力を支える地域活動にふれる ―北海道サロベツ湿原と利尻島を訪ねて―	北海道:利尻礼文サロベツ国立公園(サロベツ湿原、利尻島など)
吉川FS ブナの森から農業と農村を考える	新潟県上越市吉川区 (旧 吉川町)
科学博物館で学ぶ	国立科学博物館(東京)他
生業支援・学習支援から復興を考える	宮城県石巻市北上町十三浜地区・橋浦地区ほか
再生可能エネルギー・自然保護と地域社会・まちづくり	青森県鰺ヶ沢町、五所川原市、つがる市
北上トレイル:石巻市北上町における生業を中心とした地域社会のレジリエンス形成	宮城県石巻市北上町
浜松企業のDNAから企業経営の持続可能性とCSRを探る	静岡県浜松市・磐田市・掛川市
環境修学旅行	福岡県北九州市
開発途上国における生物多様性保全の現場にふれる ―南インドの動物保護と開発利用とのバランスを考える―	南インド(バンガロール、マイソール、バンディプールなど)
開発途上国の人々の暮らしと国際協力の現場を五感で知る ―内戦の遺産と現代カンボジア社会―	カンボジア王国(プノンペン、シェムリアップ)
津軽半島をむすぶまちづくり	青森県五所川原市、中泊町、つがる市ほか
演劇ワークショップ:インプロヴィゼイション(即興)を学ぶ	ART CAFE百舌:アトリエ(小劇場/東京都)
オーストラリアン・フィールド・スタディ(AFS)	オーストラリアクイーンズランド州 ゴールドコースト ボンド大学付属語学学校
ドイツ―環境と健康のまちづくり	ドイツ(ベルリンほか1都市)

フィールドスタディ

五感で感じる学び

開発途上国における生物多様性保全の現場にふれる（インド）

高田 雅之／武貞 稔彦

開発途上国の人々の暮らしと国際協力の現場を五感で知る（カンボジア）

武貞 稔彦／安岡 宏和

日本とかかわりの深いアジアの途上国にもフィールドスタディで訪問しました。インドでは経済成長や貧困解消を目指した開発と、生物多様性保護を目的とした自然保全がどのような関係を築いているのか、カンボジアでは内戦の負の遺産である地雷と人々の貧困や幸福との関係についてどのようなことが見て取れるのかを学びの目的としました。現地の人々との交流も含め、参加学生には日本自身を見直すきっかけにもなる経験となりました。

ドイツ ―環境と健康のまちづくり

辻 英史 / 朝比奈 茂

ドイツは環境と健康に配慮したまちづくりで知られます。今回は1週間にわたり大都市や旧工業地帯の再開発・自然再生を中心に見学しました。とくにドイツでも有数の工業地帯であったルール地方において、炭鉱や鉱工業の生産施設が操業停止後も産業遺産として観光や地域住民の余暇・文化活動のために再利用されている様子や、かつては工業廃水で汚染されていたエムシャー川流域の300キロにわたる再自然化・再生事業について見学しました。

さらに、ドイツの再生可能エネルギーと電力ネットワーク構築、また大災害発生時の危機管理についてそれぞれ担当する官庁を訪問したほか、サッカー・ブンデスリーガの強豪バイヤー・レーバークーゼンの本拠地スタジアムを訪問し、トレーニングやリハビリのための施設を見学しました。

オーストラリアン・フィールド・スタディ（AFS）：英語と自然環境保護を学ぶ

長峰 登記夫 / エスター・ストックウェル / 板橋 美也

オーストラリア北部のクイーンズランド州に2週間滞在し、①オーストラリアの大学で英語を習い、②世界的に貴重で珍しい自然を学び、③オーストラリア人の家庭で過ごします。オーストラリアは環境保護の分野では世界的に知られた国であり、限られた時間の中でも多くの貴重な体験ができるものと期待しています。

海外フィールドスタディ奨励金制度

人間環境学部では海外で開催するフィールドスタディにできるだけ多くの学生が参加できるよう、参加者に対し費用の一部を「奨励金」として支給します。対象となるコースや支給金額等については募集時に掲示します。

トニカン

「とにかく考えてみよう！」

人間環境学特別セミナー・東日本大震災と人間環境学部

震災、原発、エネルギー問題……わたしたちには何ができるのか？

1. ドキュメンタリー映画上映とディスカッション

2011年3月11日の震災とそれに続く原発事故がもたらした被害によって、日本とそれを取り巻く環境は大きく変わりました。いま、日本の社会は大きな転換期を迎えようとしています。

その中で、大学にいる私たちには何ができるのでしょうか。募金や節電への協力、あるいは被災地の復興支援のためにボランティア活動をする、そうした活動がひとつ考えられます。しかし同時に、変わりゆくこれからの社会の姿について、一人一人が自分の意見を持ち、将来像を作り出していくことも大事でしょう。

人間環境学部では、このような考えから「とにかく考えてみよう」という企画をおこなっています。教員、学生だけでなくOBや一般の方も参加して、エネルギー問題について、地域社会のあり方について、持続可能な社会の可能性について、ドキュメンタリー映画を見てディスカッションをするというものです。あなたも、ともに議論しませんか。

トニカンは2011年6月以来これまでに8回開催され、学内外合わせて合計600人以上の方が参加しています。また、映画上映に続けて制作者や関係者の方の講演も開催しています。

- 第1回 『ミツバチの羽音と地球の回転 スウェーデン―祝島 エネルギーの未来を切り開く人々』（鎌仲ひとみ監督、2010年）
- 第2回 『100,000年後の安全』（マイケル・マドセン監督、2009年デンマーク）
- 第3回 『内部被ばくを生き抜く』（鎌仲ひとみ監督、2012年）講演：鎌仲ひとみ氏
- 第4回 『Nuclear Nation』（舩橋淳監督、2011年）
- 第5回 公開ディスカッション「原発避難を考える」 舩橋淳氏（『Nuclear Nation』監督）、市村高志氏（とみおか未来ネットワーク代表）による原発避難に関する公開ディスカッション
- 第6回 『第4の革命 ―エネルギー・デモクラシー』（カール-A. フェヒナー監督、2010年ドイツ）
- 第7回 『イン トランジション進行中2.0』（エマ・ゴード監督、2012年イギリス） 講演：加藤俊嗣氏（NPOトランジション・ジャパン）
- 第8回 『イエローケーキ　クリーンなエネルギーという嘘』（ヨアヒム・チルナー監督、2010年ドイツ） 講演：渋谷哲也氏（東京国際大学）

2. 人間環境学部 震災復興支援特別フィールドスタディ

フィールドスタディの一環として、NPO法人パルシックと提携して宮城県石巻市で復興支援のボランティア活動をおこなっています。2011年度には3回にわたり現地入りし、瓦礫の片付けや、損傷した民家を復旧してのコミュニティ・カフェ「おちゃっこ」の設置と運営などをおこないました。2012年の夏からは石巻市北上町の仮設団地「にっこり団地」を主な活動場所として被災者の方の農業や漁業の支援、仮設団地に暮らす子どもたちの遊びや学習の支援をおこなっています。2013年度にはスタディツアー型のフィールドスタディも開催し、復興の現状を直接見学する機会をもちました。

3. 震災復興支援関連イベント

NPO法人パルシックに協力して、被災地住民の方と交流するイベントを開催しています。

2011年度には「北上町十三浜漁村復興支援・トーク&ライブ」、2012年度には「東日本大震災復興支援事業報告会－北上町の今とこれから－」がおこなわれ、いずれも被災地の様子や復興の実情を伝える貴重なお話を聞くことが出来ました。

2013年度はさらにミニシンポ「福島の食と農の再生」も開催されました。

学生の環境活動 Green up the World

キャンパス・エコロジー・フォーラム

地域環境保全のために学生でも取り組めることから行動することが、より良い地域作りの手助けとなります。そして自らフィールドに赴き、自然や地域の方々と触れ合って問題点を知り、考え、理解を深め、挑戦し続けることが大切です。キャンパス・エコロジー・フォーラムには、10年以上継続してきた棚田班や里山班、大学祭で発生する廃棄物の分別とその指導を行う学祭班、新たな活動をクリエイトする企画部があり、各班は積極的に活動しています。また、月例会ではメンバー全員が各班の活動内容を共有して意見交換し、次の活動に役だてます。

法政米米クラブ

私たちは、新潟県上越市吉川区の山間部にある川谷地区をフィールドに、棚田での無農薬・無化学肥料での米作りを始めとする「山里の暮らし体験」をメインに活動しています。地元のおじいちゃん、おばあちゃんと農作業を行い、豊かな自然と素朴な人情にふれるとともに、昔ながらの生活の知恵も学べます。また、この地区の「大運動会」や「雪下ろし」「冬祭り」など、都会では経験できないことがたくさんあります。山里の暮らしを体験したい、中山間地農業について知りたい、雪国に行ってみたいなど、少しでも興味のある方は参加してみませんか。

法政イレギュラー

私たち法政イレギュラーはボランタリーな活動を行っており、二つの団体から構成されています。一つは「LoRoSHIP（ロロシップ）」です。ハートフル国際協力プロジェクトをテーマに、東ティモールの雇用機会減少と伝統文化衰退の問題解決を目指します。現地へ渡航し、専門家や有識者からも多くを学ぶことができます。もう一つは「みちしるべ」で、環境問題を考えながら癒しを求めて旅をするグループです。活動内容は会議や不定期的なイベント、夏・春の合宿などです。近年はボランティア活動も行い、環境問題と向き合う機会を設けています。

水と緑フォーラム・HOSEI

水と緑フォーラム・HOSEIは東京都奥多摩市をベースに地域研究を行っている法政大学公認の環境系サークルです。現在のメンバーは2年生1名、1年生4名と少ないのですが、少人数であることを活かして和気あいあいと楽しく活動しています。今年はエコツーリズムについて研究し、他の団体との交流も兼ねてエコツアーに参加していく予定です。活動してゆく中で、奥多摩とその他の様々な地域の人々と交流する機会が多く、自らの知見を深める良いきっかけになると思います。いつでも新入会員大歓迎です。興味がある方はぜひご連絡ください。

EMS研究会 Green Notes

EMS研究会では、毎年ひとつの業界を決めて、企業訪問などを通して環境経営を実践的に学び、その過程で自ら考え行動し、継続する力を身につけます。2013年度は東京都内の中小企業の経営について研究し、自分達で考えた経営企画・評価基準によって実際の企業経営を学びました。活動の成果は環境サステイナビリティーレポートにまとめ、学会での発表も行っています。社会が求める人材になるだけでなく、社会を動かす人となることを私たちと共に目指しませんか。少しでも環境経営に興味のある方、EMS研究会は皆さんの参加をお待ちしています。

法政大学環境教育サークルSEET

私たちSEETは、神奈川県の公立高校の1年生1クラスを対象に、総合の授業時間を使って「環境教育活動」を行っています。年度ごとに環境問題に関わるテーマを決め、そのテーマに沿ってみんなで学びながら知識を増やし、学んだことを授業として高校生たちに伝えます。授業では、単に知識を提供して“わかった”で終わるのでなく、“その現象はなぜそうなるのか”や“その問題はどのように解決できるのか”などを高校生と一緒に考えます。また、授業を通してだけでなく、高校の文化祭などの行事にも参加して高校生と交流を深めています。

＼OB・OGからのメッセージ／

OB 片平 敦
Atsushi Katahira

卒業学科
人間環境学部 人間環境学科

卒業年
2003年3月卒

勤務先
2003年4月 財団法人日本気象協会
➡2008年10月 気象解説者として
個人で独立（ウェザーマップ所属）

私の仕事は「お天気キャスター」。ニュース番組で天気予報を伝えるほか、報道現場に情報を提供したり、時には専門家として意見・助言したりすることもあります。

人間環境学部は「環境」を軸に、いわゆる理系・文系の別なく学べる点が、他大学にあまりみられないユニークな点だと思います。例えば「地球温暖化」にしても、メカニズム、社会的影響、国際会議での議題などを総合的に学び、理解を深めました。また、様々な視点で分析するという「姿勢」を学生時代に身につけることができたのも、貴重な財産です。

学生時代は何かと理系・文系と分けてしまいがちですが、実社会では両者をバランスよく身につけていることがとても大切だと感じます。人間環境学部で「広く・深く」学べたことは、いま、私にとって大きな力になっています。

OG 葉山 かおり
Kaori Hayama

卒業学科
人間環境学部

卒業年
2006年度卒

勤務先
川崎市役所

私は、現在、経済労働局で、市内の産業動向の調査やコンテンツ産業・ソーシャルビジネスの振興に取り組んでいます。企業や大学、NPO法人、クリエーターの方々と連携しながら、産業振興の醍醐味や難しさを味わっています。自治体職員は、様々な立場の方と接するため、柔軟な考え方であったり、幅広い関心を持つことが大事ですが、4年間の大学生活でそういった意識が醸成されるような経験や出会いがたくさんありました。

人間環境学部の最大の魅力は、環境を切り口に法律・経済・科学など様々な分野の学問を学び、体感出来ることだと思います。授業やフィールドスタディを通じて、自身の関心事を明確に出来、さらに、所属したゼミで都市政策や地域のまちづくりについて具体事例を見聞きし理解を深めたことが、今の業務にも繋がっています。

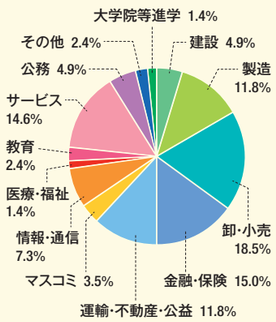
21世紀はあらゆる分野で環境の担い手が必要とされています。

近年、企業は自らの事業活動が与える環境への影響に配慮することを経営理念として掲げるようになっています。環境ビジネスを展開する企業も増えつつあります。国や地方自治体では環境政策がこれまでになく重視されてきており、さまざまな公的機関や国際機関においても環境のウェイトはますます大きくなってきています。環境問題に取り組むNGO（非政府組織）やNPO（非営利組織）も、国外と国内を問わず活発に活動をしています。

人間環境学部で学んだ卒業生は、さまざまなフィールドで環境政策を進める人材として活躍することが期待されています。環境問題の基礎を身につけ、社会に出て各分野で力を磨いていくことで、環境に鋭敏な感覚を持った社会人として仕事をすることができるでしょう。

また、市民として生きるうえでも、人間環境学部で学んだことは、かけがえのない一生の財産になることでしょう。

業種別就職状況
（2014年3月卒業生）



主な就職先（2014年3月卒業生）

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、野村信託銀行、静岡銀行、野村證券、大和証券、明治安田生命保険、トヨタ自動車、日野自動車、日本電気、バンダイ、レンゴー、日本ベーリンガーインゲルハイム、東日本旅客鉄道、東京地下鉄、京王バス、日本航空、近畿日本ツーリスト、東武トラベル、福山通運、三井住友建設、長谷工コーポレーション、パナホーム、積水ハウス、三井ホーム、住友商事、鈴与商事、大丸松坂屋百貨店、ヨークマート、日比谷花壇、日本アイ・ビー・エム、パソナ、星野リゾートグループ、共同通信社、電通、KDDI、主婦の友社、ぎょうせい、日本放送協会、日本郵便、農畜産業振興機構、住宅金融支援機構、防災科学技術研究所、防衛省、埼玉県庁、千葉県庁、静岡市役所、板橋区役所、世田谷区役所、埼玉県警察本部、全国盲導犬協会ほか

さまざまな資格取得にチャレンジ

人間環境学部では、学生が自らの目的や夢に向けてキャリア形成をしていくために、授業・ゼミやフィールドスタディに加えて、さまざまな資格を取得することを奨励しています。

➡教員免許

人間環境学部では、所定の科目を履修することによって、以下の教員免許が得られます。

- ○ 中学校教諭一種：社会
- ○ 高等学校教諭一種：地歴
- ○ 高等学校教諭一種：公民

➡資格取得

人間環境学部では、以下の資格を取得するための課程が設けられています。

- ○ 司書：図書館業務の専門職
- ○ 司書教諭：学校図書館の専門的職務を担う教諭（教職免許の取得が必須）
- ○ 学芸員：社会教育施設である博物館（歴史、美術、文学等）等の専門的職員
- ○ 社会教育主事：地方自治体で地域住民の生涯学習の支援等を行う専門的教育職員

➡環境マネジメントシステム研修講座（課外講座）

法政大学では環境マネジメントシステム（EMS）研修講座を設けて、国内の大学では唯一EMS審査員資格を取得できる機会を提供しています。